

麗和サッカークラブニュース

Vol.57

令和2年5月23日発行 発行人 麗和サッカークラブ会長 関根弘之

しなやかに

会長 関根弘之（高23回）

桜、新緑と季節を素直に感じる余裕もなく、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）により、厳しい制限の中で日常を過ごされていることと拝察し、心よりお見舞い申し上げます。また、医療従事者として直接対峙されている方、各自治体で生活面でのサポートをされている方々、皆様に感謝の気持ちを込めて「エール」を送らせていただきます。

さて、例年6月上旬に開催している「定例総会」は実施しません。審議事項である予算や事業関係は概ね変わりませんので、同封した資料をご覧ください。ご意見があればメール（reiwasac1923@yahoo.co.jp）をご利用下さい。必要に応じてスタッフで検討して本年度の運営をしていきたいと思っております。なお、HPに随時掲載しますので、定期的に関覧をお願いします。HPは麗和会（浦和高校同窓会）に間借りしていますので、そちらからアクセスして下さい。特殊な状況なのでご理解下さい。

3月16日に「仙龍」が火災に遭い、2日後遠目で現場を見ましたが、住居部分に焼けた柱が数本立っているだけでした。その1週間ほど前、ビールを飲む私の隣に座った横顔が最後でした。ご冥福をお祈りします。「思ふ会」を9月以降に開催する動きがあります。新型コロナ騒ぎの沈静化も条件ですから、現状では不確定です。詳細はHPに掲載しますが、後はロコミでお願いします。

今回、以前顧問をされていた方にメッセージをお願いしたところ早く原稿をいただきました。文章の語り口に往時の姿が浮かぶでしょう。当時のことを思い出し、エネルギーを充填して下さい。

ウィルスとの関わりは人類の起源からともいわれます。潮の満ち引きのように波が小さくなりながら収束に向かうのでしょうか、遠浅か岩場か波の現れ方は予測できません。成り行きを受け入れながらしなやかにやり過ごしましょう。

くそ！コロナの野郎

副会長 小林利成（高31回）

新型コロナウイルスに人類が脅かされておりますが、皆様は元気に過ごしていることと思います。毎日の報道でコロナコロナ、うんざりですね。

コロナに対する知見は不明なことばかりです。医師である私もわからないことだらけです。むしろ報道番組をよくご覧になって勉強されている、優秀な麗和サッカークラブ会員の方が、コロナをよくご存知かと思えます。

先日の報道では、どこかのお偉い先生が、「コロナは未知のウィルスで、何が正解かわからない。」とおっしゃっていました。

私は小さなクリニックで細々と開業しておりますが、当院の医療現場では、スーパーやファミレスと同じように、受付にビニールシールドを垂らし、待合室は窓を開け換気を強にし、椅子はテープでバツ印を付け、間隔を空けての着席。私はマスク、フェイスガード、ゴム手袋を着用し、普段は聴診触診そして医療上の注意点や世間話等、一人に比較的時間をかけるほうですが、それも最小限にしております。その他、医師会の指導に従った医療を行っております。

実は、4月6日に当院を受診した感冒症状のある患者さんが、コロナに感染していたと、後日保健所から連絡があり、保健所の指導のもと、ゴールデンウィークを含め約三週間休診しました。保健所の職員が、ぎょうぎょうしい防護服を着て、院内の消毒をしに来るかと思いきや、自分たちで消毒して下さい、と。少々拍子抜けしました。休診中にコロナは死滅することを見込んでいるのでしょうか。そしてその休診の間は、クリニック入口に掲示をし、コロナの重症化のリスクファクターとされる、糖尿病や高血圧等の慢性疾患の再診の場合のみ、患者さんから電話をして頂き、現在の病状を聞き安定しているようであれば、

同じ内容の薬の処方箋を作り薬局にFAXをし、薬を取りに行って頂く、という電話診の方法をとっておりました。

現在は、医師として大変心苦しいのですが、再び休診することのないよう医師会の指導のもとに、発熱のある患者さんの受診はお断りし、通常の診療を再開しております。PCR検査をもっと多くの方にできないのか、という批判が出ておりますが、それに加え、アピガンやストロメクトール等の内服治療薬が早く承認され、保険診療として処方できるようにならないか、と切望する限りです。

現在の医療現場では、コロナが診断され、入院して初めて治療が始まるわけで、我々開業医が治療できるようになれば、まだ不明点が多いとはいえ、インフルエンザに似たようなものではないか、と考える次第です。

とある文献によれば、致死率はコロナが0.66%、治療薬のあるインフルエンザは0.01%とあります。

以上、長々と述べましたが、この会報を読まれている今、コロナ状況はいかなもののでしょうか。緊急事態宣言は解除されたもののまだ予断を許さない、といった状況でしょうか。

浦和サッカー部現役は始動しているのでしょうか。そして麗和サッカークラブ同朋はOB戦次節に向け、蹴り始めたでしょうか。

それでは次のOB戦後の懇親会では、コロナの話題ではなく、仙龍のおばちゃんの思い出話でもしましょう。

未知なるコロナに対し、基礎疾患のある方はしっかりと加療継続し、健常の方も免疫力を落とさぬよう、体調管理を怠らずに頑張ってください。



浦和4校会19.11.04



若手4校会20.2.23



初蹴り会20.10.04

「仙龍」伊藤みや子さんを偲んで 柴田宗宏（高17回）

私は浦和高校に29期生とともに着任し、六年間顧問をいたしました17回柴田です。皆さんすでにご存じのことですが、浦高御用達のお店「仙龍」が3月16日、火災により焼失、名物おばちゃんと、厨房を預かっていた弟の工藤松夫さんがお亡くなりになりました。私が入学する2年前に開業。おばちゃんには、3年生の頃から今日まで第2の親のようなお付き合いをさせていただきました。思い出は語り尽くせません。サッカー部も合宿を初め、日頃部員の胃袋を満たしていただいたこと、総会等のOB会の懇親会の食事は仙龍からの出前であったこと等切っても切れない関係があります。本当にお世話になりました。有り難うおばちゃん。合掌

星野隆之（高14回）（現アドバイザー）
脳梗塞を12月3日に発症してから約2か月入院、退院してから4ヶ月目に入っています。たくさんの方々にお見舞いいただきました。ありがとうございました。

家でリハビリの毎日です。さすがに飽きてきましたが、このご時世、外でうろろする訳にもいかないので、仕方ありません。言葉が少々もたつきますが、家庭生活には何の不便もないところまでは来ています。

新型コロナウイルスが早く収束して、生徒たちに生き生きとサッカーをさせてやりたい！ その姿が見たい！

現役諸君、初めまして。長島猛人と申します。関根会長からの依頼で一言申し上げます。現在日本は外には鎖国、国内では戒厳令を布かれ諸君らも自宅で軟禁状態だと思う。歴史的にOBは多くの苦難をこなしてきた。戦時下でも部活は影響した。我々が高2の時、一回目の埼玉国体のマスケームで部活はほとんどなし。高3の11月大学紛争で東大、教育大(現筑波大)東京外語大の入試が中止。当時の監督であった倉持氏(高4)が国際審判員で、私の当時の日記に「セルフトレーニングという概念を新たに導入」とある。合同練習と個人練習を日によって分けた。日本の学校教育の中ではまだ定着はしなかった。

どんな状況でも浦高生は「両立」あるいは「鼎立」を目指し、混沌の中での自立が要求される。そのカギは枠組みや方針、条件のないところでの「自律」である。そこで現在そしてこれからの自律の概念を次の三点で形成して欲しい。

1、今後も諸君らは困難なことを同時にこなさなければならない。それにはそれぞれの緊張関係を保ち持続する意志を自ら設定することである。その目標は、全てを一杯やらないことだ。トレーニングはどここの国でも、日本のクラブチームでも週三回が目安だ。全ての持続のカギはほとんどやらず幅を持つこと。だから今の状況は国際規格のセルフトレーニング、イメージトレーニング、スピリットアップで充分自己涵養できる。それを続けなさい。そして安易に寝るな。寝ている時間は死んでいる時間と同じ。「子(し)の心に茅(かや)かれ(心の中の雑草はいつも刈り取っていないと道がふさがってしまう)」

2、言葉を磨くこと。私は以前サッカー協会で「日本のスポーツで遅れている点の一つはコミュニケーション能力と、内言(自分で思考する言語力)の確立」という講演をした。そのために私が監督していた時期は作文を大量に書かせた。自己分析と客観的観察力は言語で表現しなくては効果がない。これは入試の論文能力の向上にも繋がる。今ではライン、メールで個人が繋がっているため、部員同士の啓発と刺激が容易にできる。今のような社会状況下では環境的に最良である。部員間の疑問、難問、質問をレポートでやりとりする方法がある。この作業は三十年数年後、企業間で強烈に役立っている。

3、数学、英語に苦勞しているのは百年たっても同じだ。できないことをやり続ける精神で人生を鳥瞰視しなさい。特に毎日のカリキュラムのない今、学習、サッカー以外のことに目を向けよ。海外のこと、芸術のこと、起業のこと、文学のこと、科学と倫理性のこと、危機管理とマスメディアのこと。狭い範囲しか考えない人は閉鎖的な人生を送る。

私は諸君らの先輩で企業人に月一度「論語と社会問題」の講義をしている。その中にJリーグのチェアマンの村井君(高30)がいる。一ヶ月前、彼とのやりとりで「サッカーなどのスポーツ分野はあの持てる物的、人的資源をこういう緊急時にどう使うのだ」という問題になった。かれはすぐ菅官房長官に面会を求め、コロナ軽症患者の隔離問題で病院施設以外にJリーグの持つ各県のスタジアムを活用してほしい」という提案を申し出た。そして手を上げたのが鹿島アントラーズだけだったという。この村井君の行動力、企業人の発想とそれを受け止めた結果を諸君らはどう思う。中国がどれほど中華思想国家であっても日本に村井が十人いたら日本はもっと速く回復し打って出られるのだ。



久保田 厚志

平成2年度からの12年間、浦高サッカー部の顧問であった時期のことで、いまふと浮かぶのは、硬いグラウンドのことだ。大体無頓着な学校だからグラウンドが凹凸で、捻挫する生徒も多かった。何年かして、グラウンド整備用の機具を同窓会の予算で買ってもらったことがあった。それを自分の車に付けて均していた。そのうち何かの予算でトラクターを買ってもらったものだから、随分とグラウンド整備に勤しんだ記憶がある。

また試合に出ない生徒も多くいたので、試合のデータを取るようなこともやった。彼らが何らかのかたちで試合に関わり、チームに貢献できる仕掛けを考えた。個々の選手の試合中の動きをトレースするとか、ボールタッチの数を記録するなど、3~4種類の分析用紙を作った。当時としては随分斬新な試みだったと思う。ただ、これらの活動が生徒のサッカーを観る力を養い伸ばすことに繋がられたか。その力は私には無かったようだ。残念、かつ申し訳なく思う。

他にもたくさん思い出すが、それらは全て浦高サッカー部の「今」を将来に繋げていくための「協働の記憶」だ。数多くのサッカー部員諸君、指導者として浦高にいらっしゃった先生方との繋がりのなかに、ほんのちょっとだけでも自分がいるとすれば、これに過ぎた幸せはない。



松村道彦(高27回) 現副会長

平成16年度~28年度まで13年間監督を務めました松村です。定年退職して4年目を迎えました。現在県立浦和北高校にて、短時間再任用教諭として勤務しています。とはいっても公立学校は5月末まで休校で在宅勤務ですが、毎年の定例総会、OB戦ができず残念ですね。今は我慢強く自他の健康管理に気を使いながらの生活を心がけることが大切と考えます。現役部員は、特に3年生は高校総体も中止になり選手権だけとなりました。部活動再開の折は、切り替えてしっかりと準備してもらいたいものです。

OB会の皆様、私も含め年配の方はもちろん、若い皆さんも感染には充分気をつけましょう。



現役情報

サッカー部監督 本田哲也(高51回)

新型コロナウイルスの影響により、3月から5月現在までの期間において、チームでの活動を行えていない状況でございます。本来であれば、新学期が始まり新たな体制でチームが始動しているところですが、学校は休校となり、高体連の活動全般についても関東大会やインターハイが中止になるなど大きな影響を受けております。

このような状況の中、サッカー部としては個人として取り組めるメニューを提示して、感染のリスクに配慮しながら出来る範囲での計画的なセルフトレーニングを実践しているところであります。

思い切りサッカーを楽しめる日を見据え、来たるべく活動再開に向け、今は出来る限りの良い準備をしていきたいと思っております。

- 社会人1口5,000円 学生(浪人生を含む)1口2,000円
- 郵便振込 ⇒ 同封の振込用紙をご利用ください。(振込手数料当会負担)
- 銀行振込 ⇒ 埼玉りそな銀行 さいたま新都心支店 普通 0273349

麗和サッカークラブ(レイワサッカークラブ)

※振込手数料は、ご負担ください。

※必ず卒業回あるいは卒業年度を振込人前に記載してください。(例)31回 田口智雄

※埼玉りそな銀行・りそな銀行にて口座を作成してインターネットバンキングにて上記埼玉りそな銀行口座に振込の場合は、手数料無料で銀行に行かなくても振込手続きできます。

*まだ会費未納入の方は、納入をお願いします。毎年度予算目標達成に大変苦勞しております。社会人の方は、できる限り2口以上の会費納入へのご協力を何卒宜しくお願いします。



新会員 第72回生

転居等により会報送付先の住所が変更になる場合には、右記の担当者にてメールにてお知らせください。

幹事長：田口 智雄

共有メール：reiwasc1923@yahoo.co.jp